

小田原市DX推進計画の策定に対する市民意見の募集結果について

1 意見募集の概要

政策等の題名	小田原市DX推進計画の策定
政策等の案の公表の日	令和3年12月15日（水）
意見提出期間	令和3年12月15日（水）から令和4年1月13日（木）まで
市民への周知方法	意見募集要項の配布（市内公共施設、ホームページ）

2 結果の概要

提出された意見は、次のとおりです。

意見数（意見提出者数）	7件（2人）
インターネット	1人
ファクシミリ	0人
郵送	1人
直接持参	0人
無効な意見提出	0人

3 提出意見の内容

パブリックコメントで提出された意見の内容とそれに対する市の考え方は、次のとおりです。

〈総括表〉

区分	意見の考慮の結果	件数
A	意見を踏まえ、政策等に反映したもの	3
B	意見の趣旨が既に政策等に反映されているもの	1
C	今後の検討のために参考とするもの	0
D	その他（質問など）	3

〈具体的な内容〉

	意見の内容（要旨）	区分	市の考え方（政策案との差異を含む。）
1	年の表記にゆれがある。 用語集の解説が、体言止めだったり、単語のみだったり表記を統一したほうがよい。	A	表記内容について修正をしました。
2	新しいキーワードが多用され、内容が無い推進計画である。考え方を示す計画とは言え、市民目線で分らない内容だと思う。	A	誰もが分かりやすく考え方が理解できるように、8つの重点施策について、目的と取組方針の記述をしました。
3	「アジャイル・ガバナンス」について、最初からアジャイル志向で進める方針は、市民が惑いやすいやり方である。行政側からみて必要と思える施策について、推進案の具体例を提示し、議会などで議論の上、それを強力に進めることが肝要。	A	推進していく施策の例として、「2030年に目指すまちのイメージ」と取組例の記述をしました。 取組例については、社会情勢や国の制度改正、本市の予算等を踏まえ、随時見直し等を行っていきます。
4	「パートナーシップ型ガバナンス」は市民や組織の関与が見られないことは、残念です。特に、組織がわかれば、どのようなことを展開するのもかも想像できます。何の業務をどのような仕組みに改革してサービスの向上ができるのかといった道筋も見えません。	B	重点施策の（8）「産学金官連携の推進」でお示ししている通り、地域の各種団体、市内外の民間企業、大学等の研究機関や金融機関など、多様な主体と協働をし、様々な業務の改善等を行っていきます。

5	今回折角のデジタル化推進の機会でもあり、まずもって「市民が求めるものは、何か?」を調査研究すべきと考えます。	D	第6次総合計画策定の際に市民意識の把握として市民アンケートを行いました。 その結果を参考にし、DX推進計画に取り組んで参ります。
6	デジタル格差(デバイド)の状況を把握することが重要と考えます。	D	第6次総合計画策定の際に市民意識の把握として市民アンケートを行いました。 その結果を参考にし、DX推進計画に取り組んで参ります。
7	小田原の地域としてのポテンシャルをしっかりと把握する必要がある。また、市民も自らの地域の状況をしっかりと把握し、小田原のポテンシャルや魅力度が見える化することが必須課題だと考えます。	D	第6次総合計画策定の際に市民意識の把握として市民アンケートを行いました。 その結果を参考にし、DX推進計画に取り組んで参ります。

4 提出意見と関係なく変更した点

	政策案との差異	市の考え方
1	細かな字句の修正等。	文中の細かな字句や図表のバランス、デザイン等について修正いたしました。